

「重症急性 GVHD ハイリスクな HLA 型の組み合わせについて」表の見方について

「日本骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植の成績報告書(2007年度集計)」のP.121、および、「HLAに関する資料集(2007年10月12日発行)」のP.14に、重症GVHDと生存に関与する不適合HLA型の組み合わせを示していますが、日頃の先生方からの問い合わせをもとに、追加でご説明をさせていただきます。

例として、ドナーA*0206 - 患者A*0201の組み合わせをご説明します。これは次の場合に適用されるとお考えください。

ドナー = A*0206、A*X 患者 = A*0201、A*Y X 0201, Y= anything

以下に、具体例をあげますので、ご覧ください。

ケース1と2は、ドナーがA*0206、患者がA*0201を持っていても、患者のアリルをドナーが自己と認識するため、この表には当てはまりませんので ご注意ください。

		ドナー	患者		ミスマッチ方向
ケース1	A	0206 0201	0201 ホモ	表に該当せず	拒絶方向に1ミスマッチ、GVHD方向に0ミスマッチ
ケース2	A	0206 0201	0201 0210	表に該当せず	拒絶方向に1ミスマッチ、GVHD方向に1ミスマッチ

ケース2はA*0206(ドナー)対A*0210(患者)のミスマッチです。この組み合わせは、表には見当たりませんので、Non-permissible mismatch (Taboo mismatch)ではありませんが、許容されるミスマッチ(permissible mismatch)と断定することもできません。症例数が得られないため、解析されていません。

ケース3(こういうドナーが検索されることはまれですが)とケース4は、ケース1と同様に患者がホモですが、この場合は、ドナーが非自己と認識するアリルを患者が持っているため、この表に当てはまります。

		ドナー	患者		ミスマッチ方向
ケース3	A	0206 0207	0201 ホモ	表に該当し、 影響あり	拒絶方向に2ミスマッチ、GVHD方向に1ミスマッチ
ケース4	A	0206 ホモ	0201 ホモ	表に該当し、 影響あり	拒絶方向に1ミスマッチ、GVHD方向に1ミスマッチ

ケース5は、ケース1、2と同様にドナーが自己と認識するアリルを患者も持っていますが、0201については非自己と認識するため、この表に当てはまります。

		ドナー	患者		ミスマッチ方向
ケース5	A	0206 ホモ	0201 0206	表に該当し、 影響あり	拒絶方向に0ミスマッチ、GVHD方向に1ミスマッチ

実際にご担当されている患者とドナーとのミスマッチの組合せが、この表に該当しない場合は、「HLAに関する資料集」のP.22に解析結果が掲載されていますので、ご参考ください。

また、Cwの不適合移植におけるNK細胞受容体(KIR)リガンド適合に関しては「HLAに関する資料集」のP.19をご参照ください。

以上